

## <3年次>

### ①学習過程を重視した授業改善

2年次は、子どもたちが学んだことを活用する場を意識して授業づくりをし、できるだけ子どもたち自身が主体的に「活用」できるように研究を進めてきた。

どの学年もそれぞれの発達段階に応じて、考える（思考）、判断する（判断）、表現する（表現）ことを授業に取り入れるようにしてきた。1時間の学習の中で、何を判断し何を考えるのか。つまり、『思考・判断・表現』の力を育てる場を1時間の学習過程の中に見出し、それぞれの過程を重視した授業づくりを3年次では進めることとなった。学習過程を重視した授業づくりをしようとする、単元全体やその学年での学び、学年を越えた系統性などを把握する必要がある。3年次は、系統性も意識して授業研究を進めていく。

## 5月

### ■「読解活用力をつけるための国語科教材研究」

講師 大阪教育大学 准教授 住田 勝先生

### ■「PISA 型学力をつけるための算数科指導」

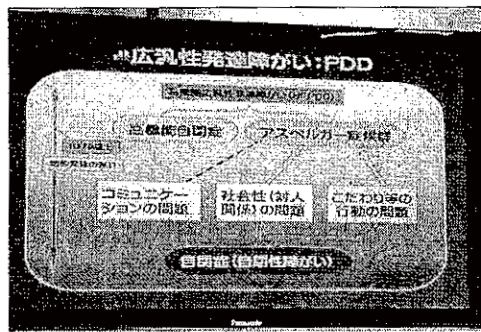
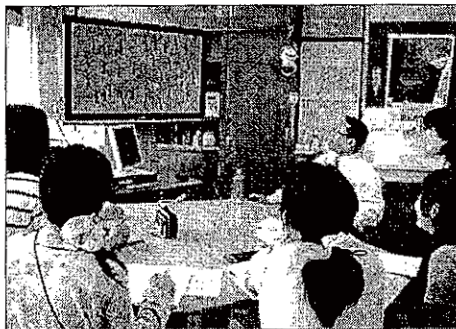
「これからの学習評価の在り方について」

講師 大阪大谷大学 特任教授 仲野 務先生

### ■支援教育に立脚した授業改善

～通常の学級におけるナリユラルサポートをめざして～

講師 大阪大谷大学 准教授 小田 浩伸先生



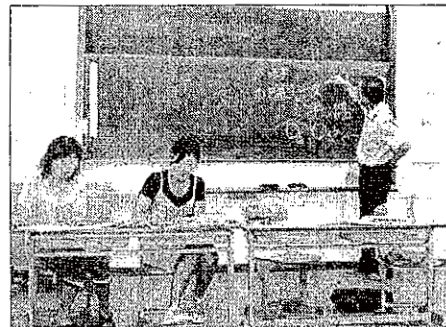
## 8月

### ■「PISA 型学力」を培う国語科の授業づくり

国語科 講師 大阪府教育センター 岩佐美奈子先生

### ■「PISA 型学力」を培う算数科の授業づくり

算数科 講師 大阪大谷大学 特任教授 仲野 務先生



## ②部会別研修

### 【国語科】

5月〇6月の研究授業に向けて(住田先生)

- ・言葉と言葉、文と文、段落と段落、作品と作品を比べながら読む。
- ・場面のつながりや部分のつながり(似てる部分・違う部分)に注目させることで、文章全体を意識させる。
- ・子どもが、一人で拾える言葉と拾えない言葉を把握しておく。授業の話し合いの中で、一緒に読み深めていく。
- ・人物設定を徹底的にくり返しながら、読み進めることを大切にする。
- ・読み取った人物設定を掲示しておくことで、常に立ち戻ることができる。  
(高学年になれば、自分の視点で書くことができるようになる。)
- ・各学年の教材のつながりを見通した指導を行う。

7月〇各学年の6月研究授業についての成果と課題

- ・各学年の取り組みを参照

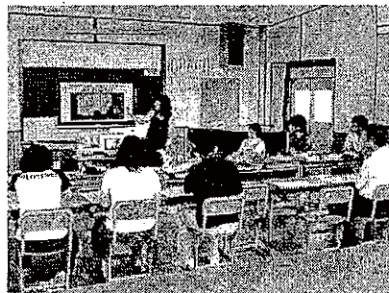
○教科研究内容の具体化・系統性についての検討

- ・学習課題を共有した上で、課題に対して「ひとり学習」をする。自分の考えをもって授業に臨む。

〈「ひとり学習」についての共通理解〉

子どもたちが段階的に学べるように、「ひとり学習」で大切にすることを共有する。

- ・教科書の文章に線を引く。
- ・文章をノートに視写する。
- ・手がかりとなる言葉や文を見つける。
- ・自分の考えをもつ。 等



〈方法〉

- ・ノート作りの基礎を作成し、共通の目標をもってノート作りに取り組む。  
(目付・課題・自分の考えなどを記入する。)
- ・矢印・絵・図式化・表など、いろいろな方法を取り入れる。
- ・ワークシートを使うことで型を学び、ノートをまとめることに活用する。

〈「読むこと」についての共通理解〉

物語文の学習では、場面ごとに順を追って読み進めていくだけでなく、中心場面に重点をおいて学習する方法もある。そうすることで他の場面との関わりが活きてくることもある。

- ・意味段落の番号 □・□・□…
- ・形式段落の番号 ①・②・③…
- ・本文への書き込みの仕方や、線を引く時の色などについても共通を図る。
- ・ノートにまとめる活動を『ひとり学習』として、学校全体で取り組む。

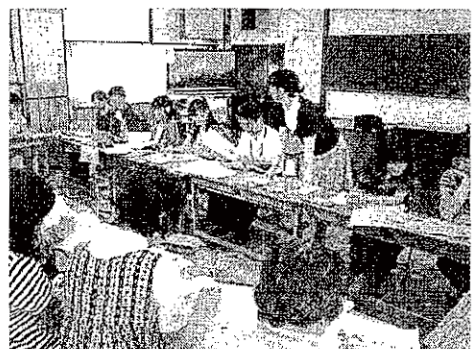
〈「ふりかえり」についての共通理解〉

- ・音読に活かす。
- ・隣に座っている子(ペア)やグループでの交流や学び合い。
- ・吹き出しに書き込む。
- ・ノートにまとめる。 等

8月○各学年の11月の研究発表に向けて(岩佐先生)

- ・全学年 構成の柱が大切
- ・**読む**
  - 低学年 文章を正しく読む (いつ どこで 誰が なにをした)
  - 中学年 想像する 段落構成 (要点・キーワードをつかむ)
  - 高学年 要旨をつかむ 作者の表現工夫・書きぶりに目を向ける
- ・**書く**
  - 低学年 主語・述語の関係
  - 中学年 段落
  - 高学年 序論・本論 (例示1・2・3)・結論
- ・岩佐先生より大阪府学力テストの結果考察
  - ①画数に関係なく書き取りの正答率が低い。  
特に、訓読みの書き取りができていない。
  - ②接続詞を使って、二文を一文に書き直す正答率が低い。
  - ③理由を書く、条件に合うように文を書く、根拠を明らかにして思ったことや考えたことを書く、それらを制限された字数内で書くことの正答率が低い。

「書く」ということは、自分の考えを明らかにし、言葉を通じて、他者とのつながりをもつこと。





## 【算数科】

5月 「生活を深める豊かな学力の育成」～PISA型学力を重視した授業づくり～

河内長野市子ども教育支援センター

大阪大谷大学 特任教授

仲野 務先生

○算数科における新学習指導要領の観点別評価

「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「技能」「知識・理解」の四観点に変更となった。

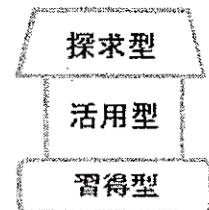
○これからの授業づくり

学習指導要領では、「活用」をいたるところで取り上げ、重視している。

① 習得型…知識・技能を身につける。

② 活应用型…知識・技能を実際に活用する。

③ 探求型…活用を基礎として、課題を探求し、考える力を高める。



7月 ○各学年の6月研究授業についての成果と課題

・各学年の取り組み参照

○教科研究内容の具体化・系統性についての検討

① ふりかえりについて

ふりかえりを文章で表すだけでなく、自分の考えを伝え合う、友だちの考えをもとにしてもう一度同じ問題を解くなど、様々な方法がある。

② 見通しについて

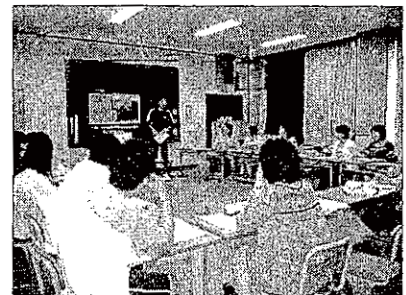
自力解決を十分にするためには、時間をかけて見通しを持たせることも必要ではある。情報の受け入れとしての見通しをどこまで持たせるかは、算数部の今後の課題である。

③ 教材開発について

情報の取り出し方を考えると教科書だけでは不十分なので、引き続き生活に密着した教材開発に取り組んでいく必要がある。

④ 3つの量について

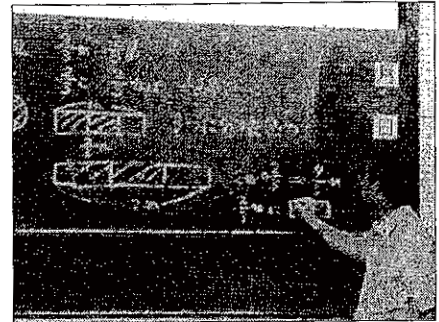
1あたり量・分量・全部の量を色分けし、全学年統一して指導する。





3年生 単元「分数」

- ・分数の導入方法は、教科書で扱っているように、普遍単位から入ることが望ましい。
- ・分数に興味を持ち、基礎的なことを身につけさせる。その後、4年、5年、6年へとつなげることで、より分数への理解を深めていくようにするとよい。



4年生 単元「がい数の計算」

- ・日常生活の中でがい数を使って見当をつけることができるようになって欲しい。
- ・発表を残せるようなプロジェクターの使い方を考えたい。
- ・問題解決学習のスタートは「気づく」子を育てることである。「気づく」ことが難しいのであれば、教師がゆさぶりをかける場面が必要である。

6年生 単元「地球温暖化について考えよう」

- ・昨年からのつながりで、さまざまな資料から課題を解決する力をつけたいと考えている。
- ・単位量を求めて比べるよさを見つけたり、分数計算をしたりと今までの既習事項を用いることができるような教材を考えていきたい。
- ・学習したことが子どもたちの学習や生活に返していけるような身近な教材であることが望ましい。



### ③授業研究から見えてきたもの

3年次は、各学年が教科別部会（国語科・算数科・支援教育）に所属し、教科別に研究を進めると共に、それぞれの学年が授業研究（年間2回授業公開）を行うことにした。

6月の授業公開では、例年通り授業の視点となるキーワード（ex.活用力、読む力、ふりかえりなど）が書かれた授業交流カードを使って、授業を観る視点を明確にした。

7月末には、各教科部会が授業についての交流を行い、「読解活用力」（国語）「活用力」（算数）を培う授業としての協議を行った。また、それぞれの教科で「学習過程を重視した授業づくり」「学習評価からの授業改善」について話し合い、これからの研究についての指針にすいて明らかにした。11月の授業研究に向けて、国語科では「物語教材」、算数科では「数と計算」について系統性を意識した授業づくりを進めることになった。

教科別部会を受けての校内全体研修（8月末）では、ノートの使い方など、長野小学校での6年間の学びを意識した基礎・基本等について確認し、2学期から取り組むことになった。


**「自分で学習をすすめよう！」**

☆自分の考えをもちましよう。

☆自分の考えを話しましよう。

☆反だちの考えを聴きましよう。

☆考えたことを表現（書く・話す）しましよう。



◇ひとりで読んで

①手がかりになる言葉を 見つけます。


②その説明を 絵や図、言葉で 書きます。

◇自分の考えを


反だちや先生に 伝えます。

反だちの考えも 聴いて、自分の考えと 比べます。

◇みんなで 考えたことを 活かして、表現（書く・話す）します。



「ひとり学習」のすすめ！

 **自分の国語ノートを 作ろう！**

☆自分だけでなく 他の方が 見ても わかりやすい ノートに します。

【文字】 ・マスや 行から はみ出さない

・とめ、はね、はらいに 注意する

【わかりやすくするための工夫】

・文字の 大きさを かえる。

・大事なと 思うところは 線をひいたり 色をかえたりする。

・絵や図を とりいれる。

【考えを整理する】

・前の時間の 学習と くらべる。

・会話や 人物の気持ち、周りの様子に 注意する。

# 自分の算数ノートを作ろう!

☆算数ノートには、答えだけでなく、どのように考えたのかを残しておきます。

☆算数は、前に学習したことを使って新しい学習をすることが多い教科です。  
自分のノートを見ながら、前に学習したことをふりかえって、新しい学習を進めましょう。

【問題】 この問題を通して、学びます。

【課題】 問題を解決する中で、考えることです。

【見直し】 <方法>どんなことから考えるとよいか、考え方の見直しをもちます。  
<結果>答えがほしいどの位になるか予想します。

例：～より大きい(小さい)です。なぜなら・・・  
OOぐらいです。なぜなら・・・

【考え】 ・自分がどのように考えたのか、反だちに伝えることができるように整理してかきます。  
・絵や図をかくと、自分の考えを進めやすくなります。  
・絵や図をかくと、反だちにわかりやすく伝えることができます。

【話し合い】 ・よいと思った反だちの考えをかいておきます。  
どんなところがよいと思ったのかも、かいておきましょう。

【練習】 ・みんなで考えたことをもとに、同じような問題がうまく解決できるかどうかためてみます。

【ふりかえり】 ・今日の学習(課題)を、わかったことやわかりにくかったこと、できたことやまだ自信のないこと、気づいたことなどを書いておきます。  
・もっと知りたいこと、調べてみたいことなども書いておくといいです。

The image shows a sample page from a math notebook. The page is titled "算数ノート見本" (Sample Math Notebook). It contains several sections of handwritten text and diagrams. On the left side, there are numbered notes (1, 2, 3) and a list of numbers: 1, 2, 3, 4, 6, 12. On the right side, there is a section titled "12の約数に16の約数を比べている数を16の公約数" (Comparing the divisors of 12 and 16, the numbers that are divisors of both are the common divisors). Below this, there is a list of common divisors: 1, 2, 4. The page also includes various mathematical symbols and diagrams, such as a number line and a diagram of a rectangle.

<算数ノート見本>



[6月 校内授業研究]

学年	教科	単元
1年	国語	いろいろなくちばし
2年	国語	スイミー
3年	算数	あまりのあるわり算
4年	算数	およその数
5年	国語	サクラソウとトラマルハナバチ
6年	算数	場合の数



5年 サクラソウとトラマルハナバチ



1年 いろいろなくちばし



2年 スイミー

■PISA 型学力（読解活用力・活用力）を高めるための手立て

○国語科

- 1年・教材分と関連のある読み物を興味や目的をもって読む。
  - ・順序をおさえて内容を読み取る。
  - ・読みの視点に沿って対比して読む。
  - ・写真と文章を対比して読む。
  - ・問題とその答えに着目しながら読む。
  - ・感想や意見を持ちながら読む。
  - ・読み取ったことをまとめる。
  - ・はっきりした発音で読む。
  
- 2年・説明的文章で学んだ「基本的文型」や「つなぎ言葉」に着目する。
  - ・段落のつながりを意識して読む。
  - ・場面の様子について想像したり、声に表現したりする。
  - ・ノートの書き方を工夫し、一人ひとりが課題に向き合うことができるようにひとり読みを進める。
  
- 5年・文章の構成の仕方から、筆者の主張をとらえ、自分でまとめる。
  - ・自分まとめをもとにして、学習を進める。

○算数科

3年・既習と未習を明らかにし、課題を共有する。

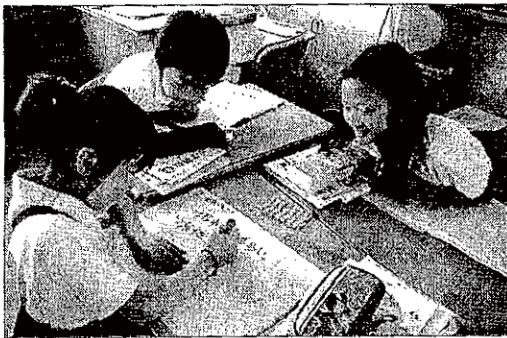
- ・絵や図を使って、自分の考えを進める。
- ・絵や図、言葉を使って、自分たちの考えをわかりやすく伝える。

4年・既習事項を活用できるように、既習事項をまとめておく。

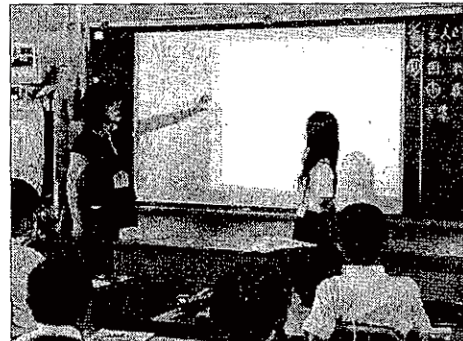
- ・概数にするために着目する位を共通理解して、解決を進める。
- ・グラフを読み取り、そこからわかることを書いたり話したりする。

6年・問題文から大切な言葉や数字を読み取る。

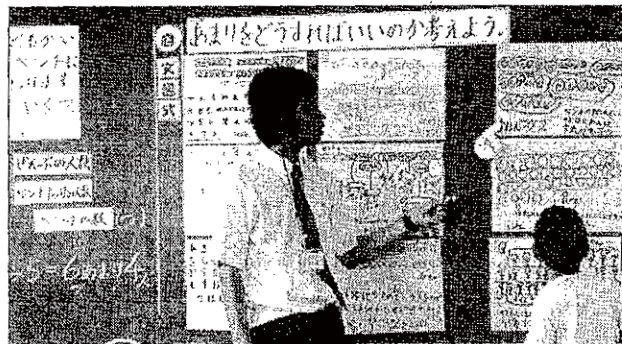
- ・問題解決するために必要な資料を選択する場を設ける。
- ・複数の資料を比較し判断して活用する場を設ける。
- ・既習の知識を活用する。
- ・図、表、数、式、言葉など多様な表現・表記を活用して解決の理由や探究の仕方を考える。
- ・自分の考えをわかりやすくまとめ、友だちの考えと比較しながら考える。
- ・学んだ学習を見直し、ふりかえることで今後の学習に活かすようにする。



4年 およその数



6年 場合の数



3年 あまりのあるわり算